

関西の児童養護施設へ生理用品を寄贈

全日本ボランティア連盟とミス・ユニバース・ジャパン2026出場者たちが、生理について学ぶセミナーを実施



全日本ボランティア連盟は、ミス・ユニバース・ジャパン2026の出場者たちとともに、奈良県の社会福祉法人 飛鳥学院と、大阪府の児童養護施設 入舟寮を訪問し、生理用品を届けるとともに、子どもたちを対象とした「生理について学ぶセミナー」を実施しました。

今回の取り組みでは、生理用品を届けるだけではなく、子どもたちが生理について正しく知り、不安や悩みを抱え込まずに向き合えるきっかけをつくることを目的に、生理の仕組みやナプキンの使い方・捨て方、生理との付き合い方などを分かりやすく伝えました。



セミナーに参加した子どもたちからは、

「これから私も使うので、ありがたいです」

「初めてナプキンを触りました」

といった声が寄せられました。

また、施設職員からは、

「セミナーを受講して、子どもたちはもちろんですが、職員も良い学びをさせていただきました。全日本ボランティア連盟の皆様の“伝えたい”という思いが、子どもたちにも伝わっていました」

「物価が高騰する中、このような支援はとてもありがたく思っております」

との声があり、生理用品の提供とあわせて、知識を届けることの大切さを実感する機会となりました。

子どもたちとの交流を通じ、ミス・ユニバース・ジャパン2026のメンバーにも新たな気づき

同日、活動に同行したミス・ユニバース・ジャパン2026のメンバーは、子どもたちとの交流について、

「実際に子どもたちと触れ合ったことで、児童養護施設の子どもたちに対して持っていたイメージが変わりました。皆さんとてもポジティブで元気で、私たちの方がエネルギーをもらいました」

と振り返りました。

施設では、今回のセミナーをきっかけに、職員と子どもたちが生理について会話する機会が生まれ、これまで抱えていた生理に関する悩みを話し合うきっかけにもなったといいます。



生理を「正しく知り、話せる」環境づくりへ

生理について体系的に学んだり、日常の中で気軽に相談したりする機会は、決して十分とはいえません。

生理痛や体調の変化などに悩みながらも、「薬の副作用が怖い」「よく分からないけれど、病院に行くほどでもないと思っている」などの理由から、婦人科への相談をためらうケースもあります。

だからこそ、子どもたちにとって身近に感じられる若い世代の女性たちが、生理について一緒に考え、正しい知識を伝える機会を積極的につくることは、生理への理解を深め、自分自身の身体を大切にする意識につながります。

児童養護施設 入舟寮の施設長・城村 威男さんは、今回の取り組みについて、

「子どもたちと年齢の近い世代の女性たちから伝えてもらうことで、より説得力があります。また来年もお願いしたいです」

と話しました。

全日本ボランティア連盟では、今後も生理用品の支援と、生理について正しく学ぶためのセミナーを通じて、子どもや若い世代が自分の身体について安心して学び、相談できる環境づくりを進めてまいります。



生理セミナーの実施をご希望の方へ

全日本ボランティア連盟による生理についてのセミナーは、児童福祉施設をはじめ、教育機関や各種団体などでの実施についてご相談を受け付けています。

セミナーの実施や活動内容にご興味のある方は、全日本ボランティア連盟までお気軽にお問い合わせください。